

第32回
資料紹介展

人物写真に見る

徳島の近代

〔展示期間〕平成19年4月24日(火)～7月29日(日)
〔休館日〕毎週月曜日・毎月第3木曜日(月曜日が祝祭日の時はその翌日)
〔開館時間〕午前9時30分～午後5時
〔ところ〕徳島県立文書館 展示室

● 展示解説 平成19年6月2日(土)・7月22日(日)
午後1時30分～午後3時30分
徳島県立文書館 講座室・展示室



明治維新期の侍たち 明治3年



子供たち 昭和初期

ごあいさつ

徳島県立文書館では県内各地から収集した古文書や公文書だけでなく写真や映像資料も数多く所蔵しています。これまでも徳島の町並みや風景、戦災からの復興や自然災害の被災状況など数多くの写真を紹介してまいりました。

今回は収集した歴史写真の中から人物写真を中心に徳島の近代を生きた人びとの姿を紹介し、徳島の近代という時代を浮かび上がらせたいと考えました。優れた写真は時代を物語ると言われます。幕末・維新を生きた侍や若者たち、徳島の近代を代表する人物の肖像写真を紹介することにより、その業績を回顧したいと思います。彼らの服装・髪型から時代が感じられるだけでなく、その風貌から変革期を生きた人びとの思いや生き様までも感じられます。また、明治から昭和初期の子どもや家族のアルバムからは住居や風俗等の移り変わりはあっても、子どもたちの愛らしさや家族の絆は普遍的なものであることをあらためて感じます。

幕末に伝わってきた写真技術は次第に日本の各地に伝えられ、人物や風景、建造物や日常生活の様子写真に撮影されてきました。それらはガラス乾板やアルバムなどさまざまな形で残されています。写真機材が希少な時代とは違い、現在は目覚ましい写真技術の発達、とりわけ急速なデジタル化が進行するなかで簡単に誰にでも写真が撮れるようになっています。今では見られなくなったアンプロタイプの写真や鶏卵紙に焼き付けられた写真、アルバムに収納された写真などを見直すことによって、写真記録のあり方やその保存について考える機会にしたいと思います。

この展示の開催にあたり、六田暉朗氏、祖上恭彦氏、久米仁氏をはじめ数多くの方々のご協力をいただきました。末尾ながらお礼申し上げます。

平成十九年四月二十四日

徳島県立文書館長 計盛眞一朗



文化の森総合公園 徳島県立文書館
Tokushima Prefectural Archives



酒井弥蔵
明治12年



蜂須賀筆子(蜂須賀正韶夫人)
明治時代



士族の若者・後藤表英
明治6年



阿部興人
明治後期



中林ナカ
明治初期



上田有沢
明治後期

古写真いろいろ

19世紀初頭に写真という技法が発明されてから様々な技術が開発されてきた。金属板に直接印画するタイプから、複数枚のプリントを可能にするためにネガ方式が開発されてきた。

①ダゲレオタイプ 銀板写真

よく磨いた銀板にアマalgamにより画像をつくるが、一回の撮影で画像しかつけないためネガタイプのコロジオン湿板の発明により廃れた。「島津斉彬」を撮影した日本最初の写真もこの方式で撮影された。

②アルビュメン・プリント 鶏卵紙

薄い紙に卵白を塗って印画紙をつくり台紙に貼りつけて使用する。クリーム色から茶色に発色する。明治初期の写真の大半は鶏卵紙といってもよいほど普及した。彩色写真もある。

③アンプロタイプ ガラス写真

コロジオン湿板の画像は乳白色であるので、このネガの裏面に黒い紙やビロードをあてるとポジになり画像が鮮明に見える。日本では桐箱に入っていることが多い。「ガラス写真」「生写真」と呼ばれている。

幕末維新の風貌

武士の支配による幕藩体制が崩壊し、欧米文化が堰きって流入する中、伝統的な日本の価値観や生活スタイルは大きく変貌していった。幕末維新期はその過渡期の真最中にあつた。写された写真からは激動期の張りつめた空気が生々しく伝わってくる。



奉幣使姿の祖上儀郎
明治35年



維新の若者・祖上儀郎 明治初年



長崎留学の徳島藩士 明治初年



庚午事変の志士 明治3年



軍服姿の徳島藩士・上田甚五右衛門
明治初年



森家の一族 慶応4年



佐古尋常小学校校舎



徳商アルバム



徳商演習（軍事教練）

戦前の卒業アルバム

今、学校を卒業する記念品として、卒業アルバムは欠かせないアイテムになっている。文書館に預けられている家史料の中には、その家の人が学校を卒業した際に受けとったであろう卒業アルバムがぼつぼつと残されている。現在所蔵している卒業アルバムの中で一番古いものは、大正15年（1925）3月に作られた佐古尋常小学校の卒業アルバムである。

昭和8年（1933）の徳島県立商業学校第20回の卒業アルバムになると現在のアルバムと遜色がないほど豪華なものになっている。表紙は布張りで、立派な革製の装飾品が付いている。クラブ活動や運動会、修学旅行の様子、その時代を示す軍事演習の様子などまで盛り込まれている。このように作られた卒業アルバムは、顔写真や活動の状況がビジュアルな形で残されており、学校を卒業した人たちの生きた証といえる。



徳商蹴球部（サッカー部）

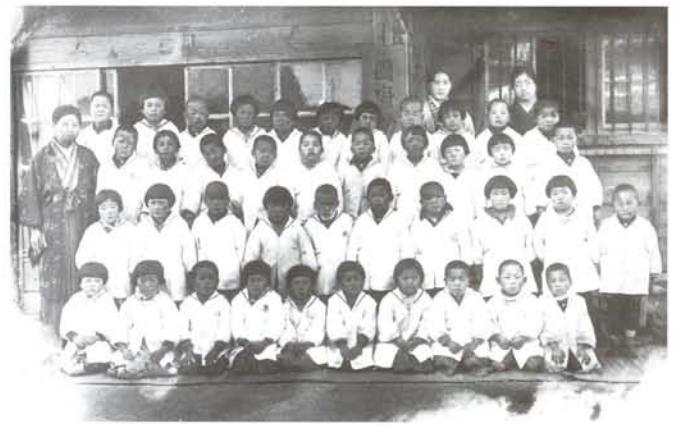


子供の風景

— 久米惣七の撮影した子供たち —

久米惣七（1901～1998）は徳島新聞社で活躍した人形浄瑠璃研究家。阿波人形浄瑠璃をはじめ徳島の歴史文化に対する深い愛着から膨大なコレクションを残した。写真に関する造詣も深く自身の撮影した写真も沢山残されている。ここでは夫とともに昭和9年（1934）設立・経営した国府至善幼稚園の園児たちの写真を中心に紹介する。

（昭和初期）





天狗久を描く野島青茲



工房での天狗久



後継者とともに



人形制作中の天狗久

天狗久（本名吉岡久吉）（1858～1943）は阿波木偶（でこ）の名人と
 たわれた人形師。膨大な数の優れた人形頭を制作したが、親交のあった久米惣七
 は、天狗久の生活や仕事ぶりを撮影しその人柄を見事にとらえている。

阿波の人形師 天狗屋久吉



喜田貞吉



近藤廉平



井上高格



志摩利右衛門

近代徳島の顔

近代の徳島を代表する政治家・実業家・文化人などを紹介する。



松江豊寿



松岡康毅

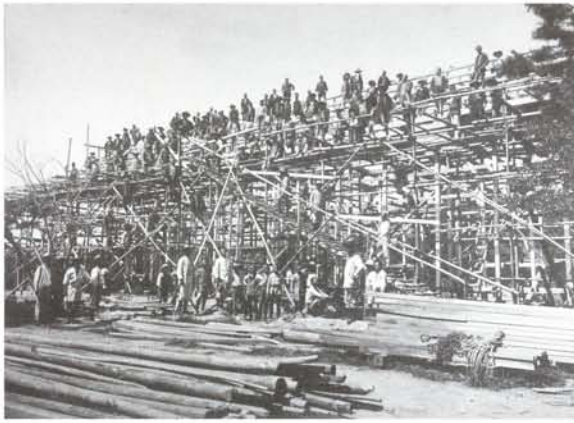


芳川顕正

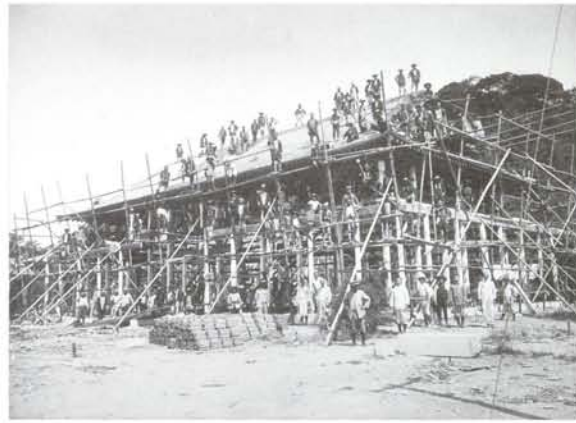


岡本韋庵

千秋閣の建築



棟上げ式

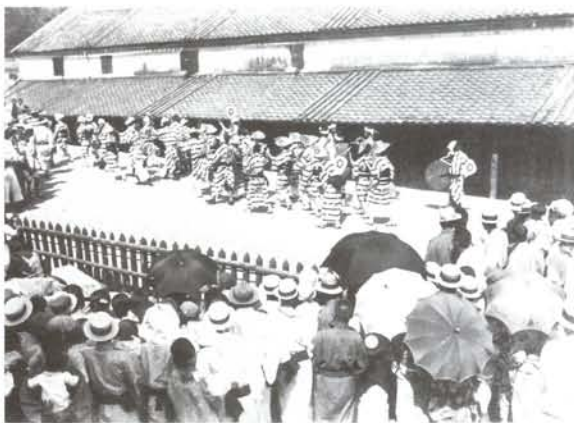


建築中の千秋閣



完成した千秋閣

「千秋閣」は明治40年（1907）、当時皇太子であった大正天皇が徳島を行啓した際、徳島公園の中に宿泊所として建設された木造建築物である。その後、徳島の代表的な建築物として幅広く利用され親しまれた。写真には千秋閣を建築するため百数十名の人々が集合している姿が鮮明に映し出されている。



「阿波の踊り子」撮影風景 昭和5年



「阿波の踊り子」の撮影風景(旧賀島屋敷前) 昭和5年

阿波踊りと映画



昭和初期の阿波踊り

阿波踊りは、格好の映画の題材として昭和初期から取りあげられてきた。昭和の映画史を代表する監督マキノ雅弘も、昭和5年（1930）「阿波の踊り子」撮影に取りかかったが未完成に終わった。マキノは昭和16年（1941）同名の映画を再度長谷川一夫主演で制作し大ヒットさせた。幻に終わった昭和5年撮影の映画の記録写真には、賀島屋敷など今はない歴史的な建物がロケーション撮影の背景として映し出されている。

展示資料一覧

テーマ	標 題		年 代	出 典
幕末維新の風貌	森家の一族		慶応4年	徳島市編「写真で見る徳島市100年」より
	軍服姿の徳島藩士		明治初年	久米家資料
	庚午事変の志士		明治3年	祖上家資料
	明治維新期の侍たち		明治3年	六田家資料
	維新の若者・祖上儀郎	※	明治初年	祖上家資料
	奉幣使姿の祖上儀郎	※	明治35年	祖上家資料
	士族の若者・後藤表英	※	明治6年	篠原家資料
	明治の男・酒井弥蔵		明治12年	酒井家文書
	明治の女・中林ナカ		明治初期	美波町教育委員会所蔵資料
子供の風景	国府幼稚園ほか(8枚)		昭和初期	久米家資料
古写真いろいろ	鶏卵紙	※		井上家文書ほか
	写真(ガラス乾板)	※		井上家文書ほか
学び舎の記録	徳島商業卒業アルバム	※	昭和8年	村上家文書
	佐古尋常小学校卒業アルバム	※	大正15年	村上家文書
千秋閣の建築	棟上式の千秋閣	※	明治40年	木津家資料
	建築中の千秋閣	※	明治40年	木津家資料
	完成した千秋閣		明治40年	東宮行啓記念写真帳
天狗屋久吉	天狗久(初代)(4枚)		昭和初期	久米家資料
阿波踊りと映画	阿波踊り映画撮影(2枚)		昭和5年	久米家資料
	阿波踊り		昭和初期	久米家資料
近代徳島の顔	志摩利右衛門	※	明治期	志摩家文書
	岡本韋庵		明治28年	『岡本氏自伝・窮北日誌』
	井上高格		明治期	『徳島県歴史写真集』
	芳川顕正		明治期	『徳島県歴史写真集』
	鳥居龍蔵		昭和期	『徳島県歴史写真集』
	上田有澤		明治期	『徳島県歴史写真集』
	阿部興人		明治期	『阿部宇之八傳』
	モラエス		大正期	徳島市編「写真で見る徳島市100年」
	喜田貞吉		明治期	『歴史家 喜田貞吉』
	長井長義		明治初期	『徳島県歴史写真集』
	松江豊寿	※	大正期	村上家文書
	梅林孝次	※	昭和10年前後	梅林家資料
	松岡康毅		明治29年	『松岡康毅先生傳』

※印は、原本資料を展示します。
資料の劣化を防ぐなどの理由で展示替えをすることがあります。



地つき(久米家資料)

第三十二回 資料紹介展

人物写真に見る

徳島の近代

平成十九年四月二十四日発行

編集・発行 徳島県立文書館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山
電話 〇八八(六六八)三七〇〇

印刷 ナカガワ・アド(株)

〒779-3200 徳島県美馬市脇野大宇積字若宮三上
電話 〇八八三(五二)一六四三